

助産所部会担当理事挨拶

助産所部会担当理事 近藤 直子



本年も引き続いて助産所部会長を務めさせていただきます。

コロナ禍において、産後うつや虐待が増加しており、母子保健を担う私達はその予防や早期発見に力を入れていく中で、産後ケア事業は大きな柱になります。

私は川口市で助産院を開業しています。川口地区活動として、産後ケアについて市長や政党への要望を出したり保健センターとの会議に参加して、助産所の利用を訴えてきました。しかし、行政からは「新生児訪問をしていることで産後ケアを行っている」と回答されたことがありました。令和2年に厚生労働省から【産前・産後サポート事業、産後ケア事業ガイドライン】が発行されると、開業助産師の協力を求められ、今年度から産後ケア事業を開始することができました。宿泊型・日帰り型・訪問型を組み合わせて7回利用できるようになり、産後に助産師のケアを望まれる方が金銭的な補助を受けられることは、大きな支援となります。産後ケアで大切なことは、助産師としてはもちろんですが、身内のおばさんでありお姉ちゃんのような心持ちでお世話することをスタッフ一同心掛けています。利用された方からは、アットホームな雰囲気助産院に入院しケアを受けたことに満足でき、育児不安の軽減に繋がったと感想をいただきました。楽しめる子育てができるきっかけになったようです。

今年度は埼玉県助産師会100周年、これからも母子に寄り添う助産師であり続けること、命の営みと子育てや生活の知恵を伝える助産所の存続に努力していきたいと思っておりますので、ご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

保健指導部会担当理事挨拶

保健指導部会担当理事 横井 聖美



今年度の部会長としての目標と、部会員の皆さまへお願いしたいこと

「令和4年度 埼玉県助産師会通常総会」が5月14日に開催され、埼玉県助産師会の今年度の活動が始まりました。総会の質疑応答の際、保健指導部会に対してもたくさんのご意見をいただきましたので、その一つ一つを大切に、今年度の運営方法を考えていきたいと思っています。

さて、私自身は保健指導部会長に就任し3年目に入りました。思うように動けないことも多々ありますが、精いっぱい務めさせていただきたいと思っております。先日の地区代表者会議の場で部会長としての今年度の目標を2つお伝えしましたので、この場をお借りして部会員の皆さまにもお知らせしたいと思います。

一つ目は「新型コロナウイルス感染症により活動に影響を受けた部会員の声をきき、改善に向けて動いていきたい」ということです。保健指導部会の会員は①開業している者②開業はせず市役所やクリニック等で勤務している者③その両方、のいずれかに属していると思われると思います。それぞれの影響を受けたと思われる活動や困った状況をどうしたら改善できるか、ということをご一緒に考えていきたいです。

二つ目は「部会員が、埼玉県助産師会に入会して良かったと思えるような運営をしたい」ということです。昨年度も母子訪問指導者講習会を開催しましたが、運営の主となるメンバーとは約半年間、毎週のようには会議を開いていました。普段会うことのできないメンバーと顔を合わせることで仲間意識が生まれたのは良かった点だと思いますが、メンバーのプライベートや本来の仕事に大きな影響を及ぼしてしまった、という反省点がありました。この反省を生かし、今年度は部会員が利点のほうを多く感じられるような在り方を考えていきたいと思っています。

以上の2つの内容に関し、皆さまにはご自身の仕事に対する不安や保健指導部会の運営に関するご意見を、地区代表者を通してお知らせいただきたく思います。

それでは、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

勤務助産師部会担当理事挨拶

勤務助産師部会担当理事 清水 操



今年度より勤務助産師部会理事となりました。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

今年度の勤務助産師部会の活動は「①対象の必要に応じた安全で主体的なケアの実践②女性のライフステージの健康を捉えた対象に応じたケアの実践③地域で活動する助産師の役割を理解し、切れ目ない母子支援について展開する④次世代の助産師と助産師会を通じて連携を図り、部会の組織活動の強化を目指す」を目標に事業を展開していく予定です。部会の皆さまには目標達成に向けた研修や情報を提供していきたいと考えております。特に今年度から研修会が装いを新たに三部会合同オンデマンド方式となります。COVID-19は大勢で集う機会を奪いましたが、どこからでも研修に参加できる形を定着させました。勤務の合間を縫ってぜひご参加ください。

私自身は埼玉県助産師会の会員になり25年を迎えます。入会はしていましたが、助産師会の活動に関わる機会はそれほどありませんでした。このような経験不足な私が理事をお引き受けするのは不安しかありませんが、助産師会を通じて次世代の助産師と連携を図り、組織活動の強化を目指す部会の目標に少しでも貢献できたらと思います。そして私自身も、助産師会、勤務助産師部会に所属してよかったと思えるよう、皆さまとのお縁を楽しみにしております。

どうぞよろしくお願いいたします。

研修会報告

母子訪問指導者講習会

令和3年度母子訪問指導者講習会は令和4年1月29日～2月26日を期間としてオンデマンド配信をいたしました。5つのテーマ【最近の知見を踏まえた離乳の進め方；堤ちはる先生】【赤ちゃんの発達から考える抱っこ；藤田蓉子先生】【産後ケアの実態と展望；江森徳子先生】【周産期のメンタルヘルス；小澤千恵先生】【小児のコロナ感染症；新田晃久先生】での開催となりました。

受講者の約90%が《助産師会会員》、受講者年齢は《40歳代》が最も多く22%、内容、資料、講義時間とも《非常に満足》および《満足》が約90%を占めました。アンケート結果からも大きな反響があったことがうかがえました。また、今後の講習会開催の形態を尋ねたところ《オンデマンド開催》が最多の79%、続いて《ライブ配信》15%、新型コロナウイルス感染症の推移に合わせて《対面とオンデマンド》が6%という結果が得られました。生活様式の変化と時代に即した講習会の形態が望まれていると考えられます。

保健指導部会・母子訪問指導者講習会担当者9名の結束力で令和3年8月から月1～2回のZoom会議を計9回開催し、助産業務では経験し得ない事を数多く学びました。様々な関連機関の方々の協力を得て本講習会を企画、運営できました事を心よりお礼申し上げます。

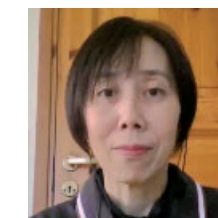
保健指導部会副会長 鈴木 直子（熊谷地区）



堤 ちはる 先生



藤田 蓉子 先生



江森 徳子 先生



小澤 千恵 先生



新田 晃久 先生